

環境報告書 2011  
Environmental Report



<http://www.namics.co.jp>

Mutual prosperity to both nature and mankind through Creativity, Innovation and Sensitivity

# Contents 目次



## ○ トップメッセージ

企業理念  
経営基本方針  
行動指針

## ○ 会社概要

## ○ 環境マネジメント

環境方針  
環境保全を推進する組織体制  
ISO認証取得状況  
年度の取り組み  
環境保全への投資推移  
環境教育

## ○ 環境とナミックス

環境保全への取り組み  
化学物質管理への取り組み

## ○ トップメッセージ

当社は1946年に創業し、1996年の創業50周年を機に社名を「ナミックス株式会社」に変更致しました。

ナミックスは  
**“創造と革新により、すべての人の幸福と自然の繁栄を実現する”**  
 を企業理念としております。

どんな関係においても、一方が良くなり他方が悪くなるような関係は持続しません。

相互繁栄こそが経営の基本であり、相互繁栄の原点と究極は人間と自然の共存、そして共栄です。

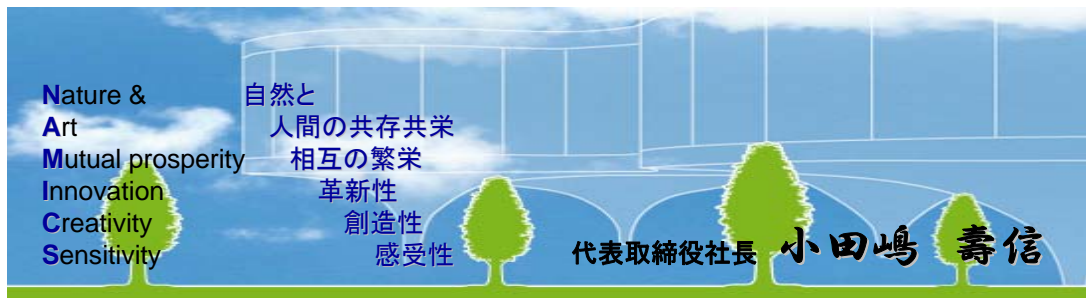
相互繁栄に貢献する企業活動には、社員の感受性、革新性、創造性が不可欠との思いが、「NAMICS」の社名に込められています。

こうしたマインドから高度な専門性を磨くと共に、よき企業市民としての責任や社会貢献、人権の尊重、行動の倫理性にも敏感な社員集団によって、企業理念の実現を追求して行きます。

そのためには、すべての社員が企業理念・社名の目指す方向に向けて具体的にどう考えて行動すれば良いか、そのよりどころとなる行動指針が

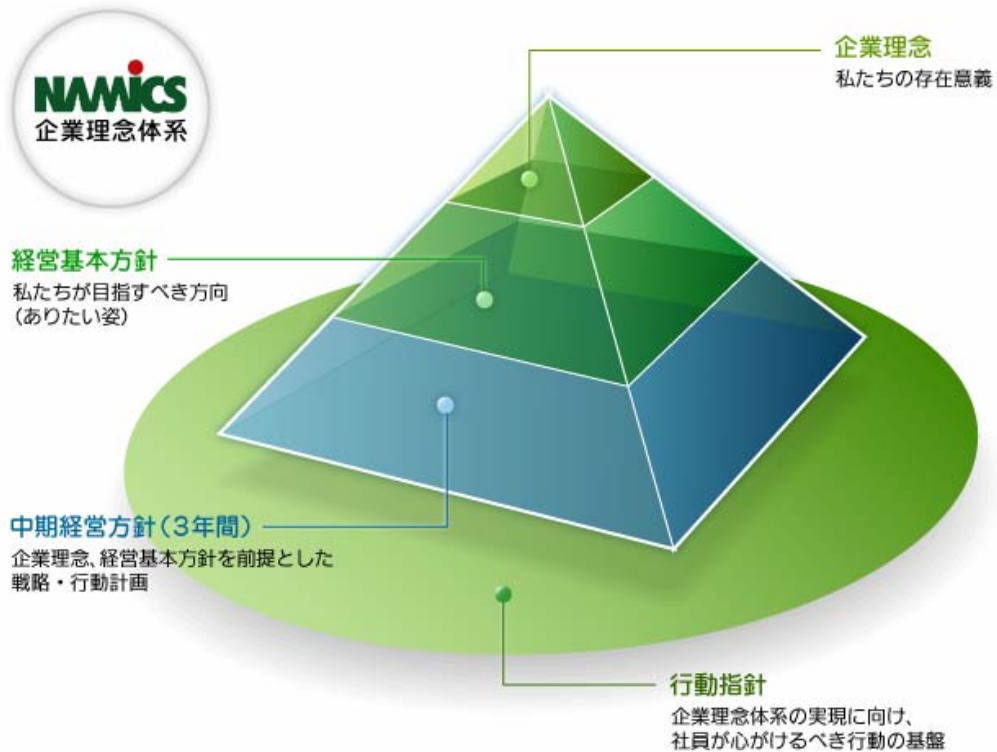
**『自立・自動・自助』** です。

この精神をさらに徹底して実践し、ナミックスは更に成長を目指します。



● 企業理念・経営基本方針

Philosophy



## 企業理念

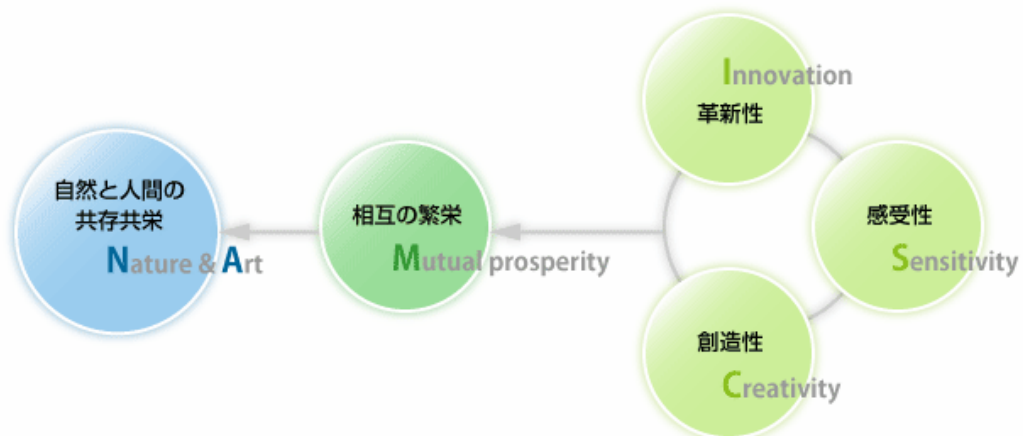
「創造と革新により、すべての人の幸福と自然の繁栄を実現する」

私たちは相互繁栄こそが経営の基本であり、企業としての存在目的でもあると考えます。

その最終目標は自然と人間の共存、そして共栄です。

これらを実現するための企業姿勢として感受性、革新性、創造性が不可欠である

との思いが、『NAMICS』の社名に込められています。



## 経営基本方針

### エレクトロケミカル材料分野において、「オンリーワン」「ナンバーワン」企業となる

エレクトロケミカル業界における自社の強み(コア・コンピテンシー)を把握し、常に新しい可能性に対して真摯に、素直に向かい続けることが、私たちが目指す価値実現を可能にします。確かな価値想像力を背景として、お客様にとって不可欠なパートナーであり続けることを長期的な経営方針とします。

### 「社会的責任 (CSR)」

私たち一人ひとりが社会的責任意識の高い企業市民として行動することは、当社が健全で継続的に発展するプロセスとして重要です。私たちは徹底的な環境保全やグローバルな供給体制、企業活動全般のコンプライアンス、社会的倫理等に適合した行動など、あらゆる企業活動の場面においてCSRを重視していきます。

#### ■ 事業を通じた社会貢献

- ・ 社会的に有為な製品・サービスを、品質・安全・環境負荷に十分配慮して安定的に提供する
- ・ 事業活動の展開は、国際社会、地域社会の文化や慣習を尊重し、その発展に貢献する

#### ■ コンプライアンス

- ・ 関係法令、社内規定を遵守した企業行動を徹底する
- ・ 公正・自由な競争・取引を行い、政治・行政・市民および諸団体との健全な関係を維持する
- ・ 企業情報の適切な開示による透明性と個人・顧客情報の適正な管理を徹底する

#### ■ 人権の尊重

- ・ 全ての人の人権を尊重し、人種・性別による差別や児童労働・強制労働を含む個人尊厳を損なう行為を禁止する
- ・ 従業員の資質が最大限に発揮できる、安全且つ衛生的な職場作りを推進する

## 行動指針

### 「自立・自動・自助」

私たちが企業理念・社名の目指す方向に向けて具体的にどう行動すれば良いか、それが行動指針です。周りや他の人にすがるのでなく、物事に対し自ら考え、行動し、事を成すこと、即ち「自立・自動・自助」の指針に沿って行動します。

## ○ 会社概要



### ナミックスの会社情報

#### ● 会社概要

Company Profile

**会社名** ナミックス株式会社 (NAMICS CORPORATION)

**本社所在地** 〒950-3131 新潟県新潟市北区瀬川3993番地

**設立** 1947年(昭和22年)2月

**資本金** 8,000万円

**代表者** 代表取締役社長 小田嶋 寿信

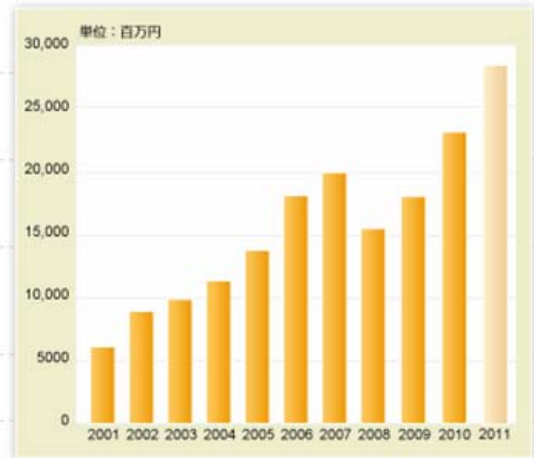
**事業内容** エレクトロケミカル材料の研究・開発、製造、販売

**売上高** 232億円(2010年度実績)

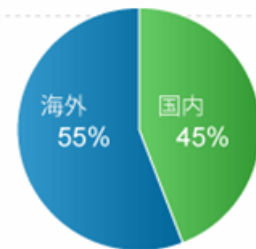
**従業員数** 446名(2010年度末現在)

**研究開発費** 8%(2010年度実績)

売上高推移



売上国内外比率 (2010年)



従業員数推移 (内数：技術開発)



## ○ 環境マネジメント

### 環境方針

当社は多くの水辺空間を有し、ゆたかな川の流れが日本海に注ぐ“水の都”新潟市の東部に位置し、周囲を田畑の実りに囲まれています。

創業以来この豊かな自然を守り、SEEDS(S:半導体、E:エネルギー、E:環境、D:ディスプレイ、S:システム)をキーワードにエレクトロニクス製品に関わる絶縁・導電材料の研究開発を積極的に行い、製品供給を通して人々の生活文化の向上に寄与してまいりました。

今後も、会社や自然といったすべての関係において共存共栄を実現し、ともに繁栄することを目指しています。

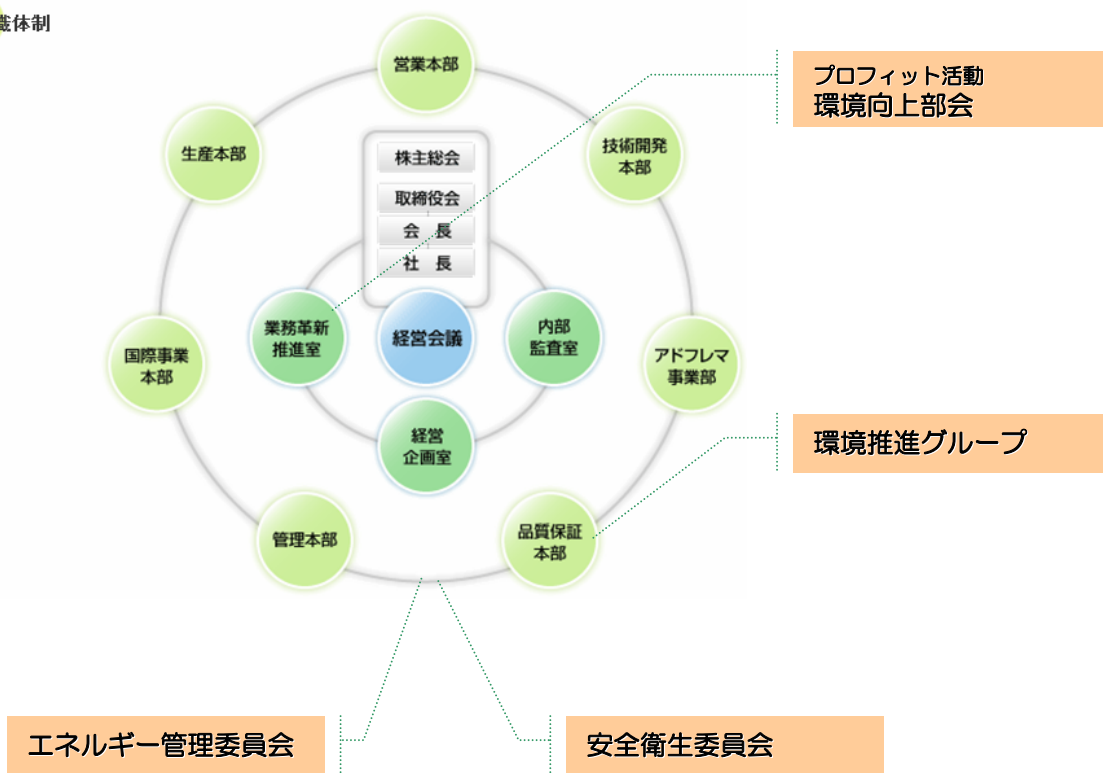
1. 環境保全活動を経営の最重要課題の一つとして位置づけ、環境マネジメントシステムの継続的改善を通して一層の社会的責務を果たす。
2. 環境方針はすべての社員に周知し、一人ひとりが地球環境問題を自覚し、社会に貢献するよう努める。
3. 環境保全に関する法令を順守し、当社が同意する業界や関連団体の指針を含む国際的な協調に努め、汚染の予防と安全操業・保安防災の向上を図る。
4. 事業活動に係わる環境側面について、次の環境保全活動を主軸として推進する。
  - 4-1. 省エネルギーの推進
  - 4-2. 3Rの推進（発生抑制：Reduce、再使用：Reuse、再資源化：Recycle）
5. 製品の環境負荷低減のために、次の活動を推進する。
  - 5-1. 製品の持つ環境影響を最小限にするよう配慮した研究開発・設計に取り組む。
  - 5-2. 製品に含有する環境負荷化学物質の削減・代替を推進する。
  - 5-3. 製品包装材料の最小限化に取り組む。
6. 環境方針を達成するために、環境影響評価の結果を考慮し環境目的および目標を中期計画として策定するとともに、単年度ごとに具体的な実施計画を設定し実行する。
7. この環境方針は、社内外に開示する。



ナミックス株式会社  
代表取締役社長 小田嶋 壽信

## 環境保全を推進する組織体制

組織体制



## ISO 認証取得状況

ISO14001の認証取得状況は以下の通りです。

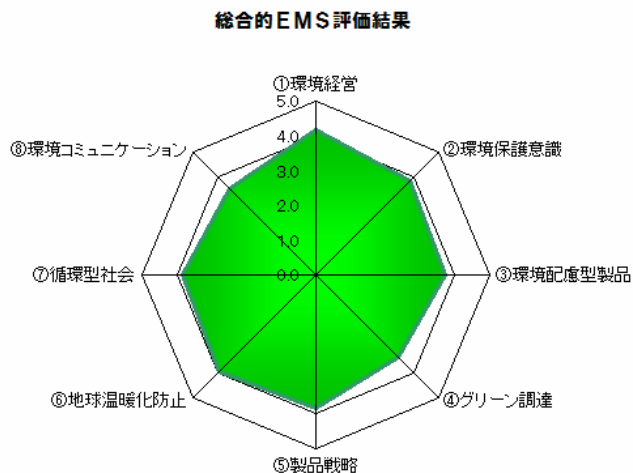
その他、品質のISO規格である ISO9001、ISO/TS16949のマネジメントシステムも認証取得をしています。

登録事業者	登録範囲	取得年月日	審査登録機関
ナミックス株式会社 関連事業所： 月岡工場 ナミックステクノコア	電子部品外装用コーティング剤・ペースト・粉末、半導体封止用樹脂、電子部品・電子回路及び電池用導電性ペースト、導電性粉末、導電性接着剤、ディスプレイ用導電・絶縁材料、電子部品等の表示用ペーストの設計・開発及び製造	2003/11/21	JQA 財団法人 日本品質保証 機構



## 年度の取り組み

2010年度の全社的な環境への取り組みを8項目にて内部環境監査員が評価した結果は次の通りです。



環境コミュニケーションとグリーン調達の項目がやや低くなっています。

環境コミュニケーションへの今後の取り組みとしては、環境報告書の発行等を行い、社内外へ積極的に環境情報を発信して行きます。

グリーン調達については製品に使用される部品・材料のグリーン調達は進んでいるものの、その他一般事務用品の取り組みについて情報発信を含めて充実を進めて行きます。

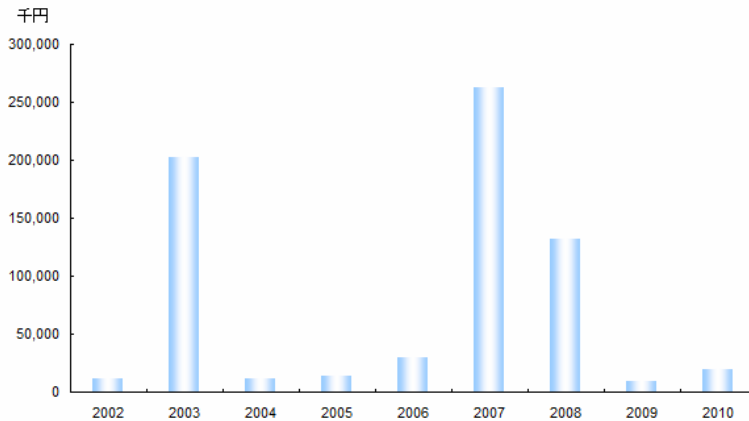
## 年度の取り組み



2010年度の全社的な環境への取り組み、目的・目標の結果は以下の通りです。

項目	目標	評価	結果
環境マネジメントシステム	総合的EMS評価システムの試行	○	総合的な評価項目を8項目設定し、内部監査員による評価を行い、環境報告書試行版へ盛り込みました。
	環境活動PRの充実（環境報告書の試行）	△	環境報告書試行版を作成した。年度内に社内向けに発行予定で進めていたが、2011年度HP上での公開に向けて内容を精査しました。
	低炭素社会に向けた取り組みの充実	○	管理の基本となる“エネルギー管理委員会”を立ち上げ、設備の管理標準草案を作成しました。
環境配慮商品	環境配慮商品の設計開発件数、計画達成率100%	○	技術開発本部にて12件のテーマを設定し取組んだ結果、11件が達成率90%以上となりました。
化学物質管理	副資材の管理対象枠組みの明確化	○	副資材の管理対象を製品含有化学物質管理規定にて明確にし、運用に向けて実務レベルの改善を行いました。
省資源化運動/資源の有効利用  N&A-Action 2012	廃棄物発生量、2009年度実績以下	○	生産部門での通箱化等も進み、生産量原単位では、2009年度の416g/kgが300g/kgとなり、前年度比27.9%の削減となりました。
	廃棄物リサイクル率、98%以上	○	再資源化材料への移行も進み、リサイクル率は年平均で99.2%となりました。
	環境負荷項目の改善、環境配慮項目の実践	○	全社で28テーマの活動を展開し、22テーマ79%が達成率90%以上となりました。
	エネルギー使用量の抑制施策	○	設備管理G: 冷却水P、2系統をインバーター化し、電力量を1日当たり432kwhから389Kwhへ削減。インシャル1,200千円、ランニングコスト1,159千円となり、ほぼ1年で投資額が回収できる見込みです。

## 環境保全への投資推移



主な環境保全への投資としては、

2003年、月岡工場の周囲が住宅地であることから蓄熱燃焼式排ガス処理装置を設置。本社排水処理施設を更新

2007年、生産排水処理施設増設

2008年、ナミクステクノコア緑化等を行い、

2010年度はポンプのインバーター化や電気自動車の導入を行いました。

※上記投資推移は環境保全への設備投資であり、日常の環境保全に関する保全費用や人件費、廃棄物処理費用などは含んでおりません。

## 環境教育

経営理念及び環境方針に対する理念の共有と意識の醸成を図ることを目的に“環境教育・研修”を全社員対象に実施しています。

また環境の基本教育や専門教育に加えて、製品に含有する化学物質の管理の重要性についてもJGPSSIのガイドラインに基づいた教育を行っています。

加えて、プロフィット活動における環境向上部会では、各職場の安全担当を対象にリスクアセスメントの教育や安全指導、危険物や溶剤の取り扱い教育などを行っています。



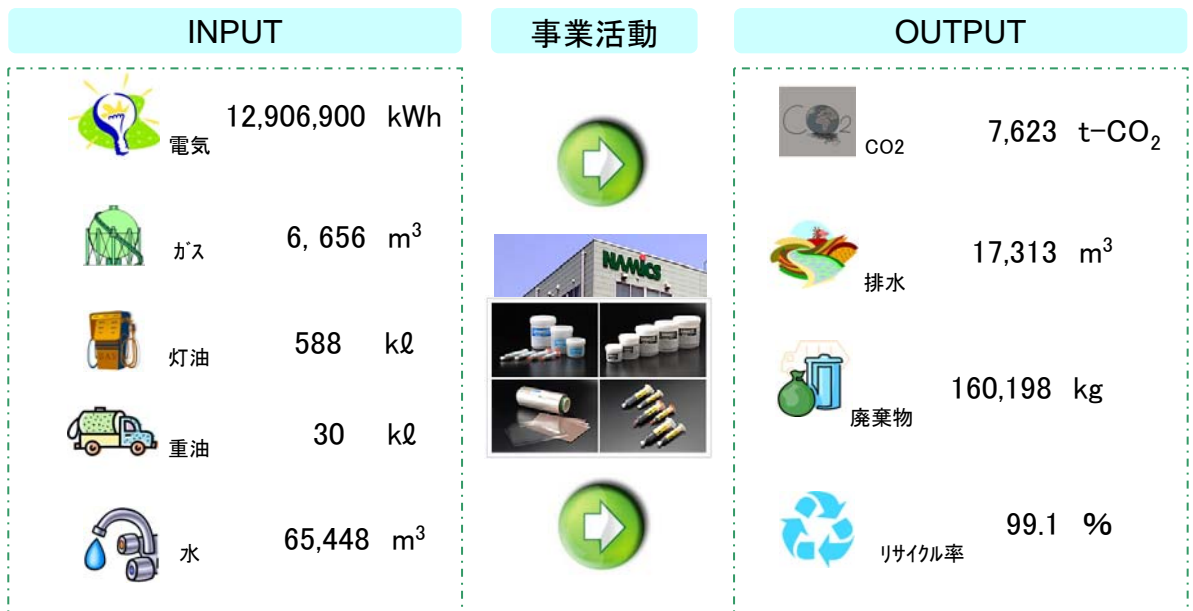
## ○ 環境とナミックス

### 環境保全への取り組み

#### 環境負荷の全体像

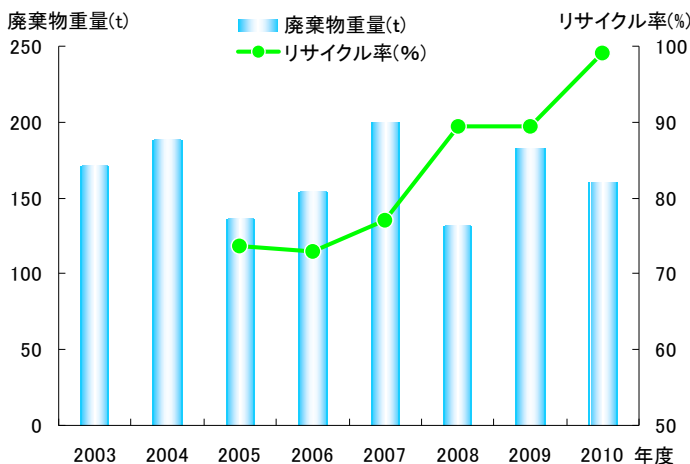
環境負荷の全体像は次のようになっています。

(2010年度実績)



#### 廃棄物発生抑制と再資源化

廃棄物重量とリサイクル率



廃棄物の減量化や発生した廃棄物の再資源化に取り組んでいます。

例として、排水汚泥は道路の路盤材としてマテリアルリサイクルされ、廃溶剤は燃料としてサーマルリサイクルされています。

その他、廃棄物を熱分解ガス化溶融方式により生成物は工業燃料ガスや金属原料などの再資源化されています。

## 水質汚染防止への取り組み

### ■青い空と清らかな水辺を守る工場設備

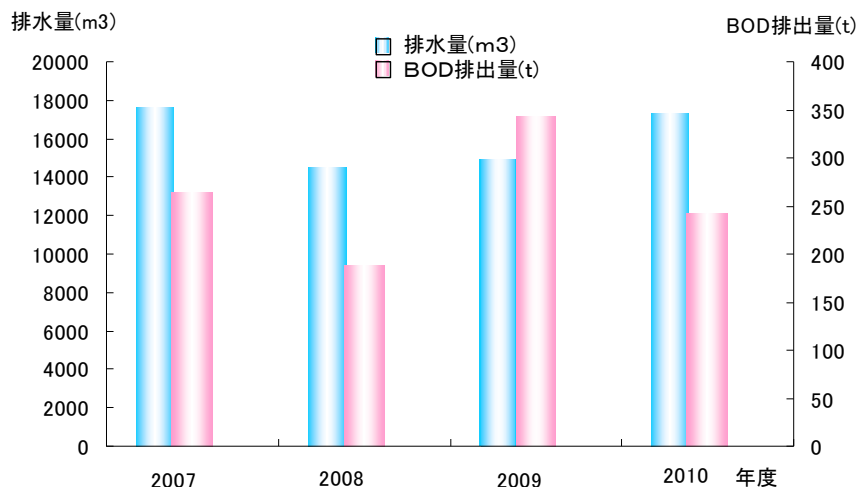
当社の排水は阿賀野川を經由して日本海へ放流されます。排水処理施設によって工場排水をきれいにし、法規を遵守することにより公共水域の水質汚濁防止に努めています。

水質汚染防止のため、排水処理施設の日常点検・整備を行い、安定稼動に努めています。また、排水の水質は日々監視し、定期的に全項目の確認も行っています。



排水処理施設(本社工場)

年/月		2010/4	2010/11	2010/4	2010/11
測定項目		排水基準		No.1東側側溝放流水	No.2西側側溝放流水
pH	上限	5.8	7.3	7.6	6.9
	下限	8.6	7.3	7.6	7
BOD(生物化学的酸素要求量)		40mg/l	22	13	5
浮遊物質(SS)		50mg/l	23	18	13
ノルマルヘキサン抽出物質	鉱油類	5mg/l	<1	<1	<1
	動植物性油脂類	30mg/l	<1	<1	<1
フェノール類		5mg/l	<0.01	<0.01	<0.01
銅		3mg/l	0.02	<0.01	0.05
亜鉛		2mg/l	0.15	0.04	0.2
溶解性鉄		10mg/l	0.11	0.06	0.22
溶解性マンガン		10mg/l	<0.02	<0.02	<0.02
大腸菌群		日間平均3000個/ml	2800	100	94
窒素		100mg/l	5.5	4.7	3.7
クロム		2mg/l	<0.04	<0.04	<0.04



総排水量とBOD排出量

## 地球温暖化防止への取り組み



地球に降りそそぐ太陽エネルギーのうち、約30%は雲などによって反射され、残りの70%が地球に到達します。太陽エネルギーを吸収した地表からは赤外線が放射され、その多くは宇宙空間に放出されますが、一部は大気中の水蒸気や二酸化炭素などによって吸収されて地球を暖めます。地球はこの温室効果の作用により地球表面の平均気温は約14℃に保たれ、私たち人を含む動植物の生存に適した環境が保たれています。ところが今そのバランスが崩れて地球に異変が生じています。

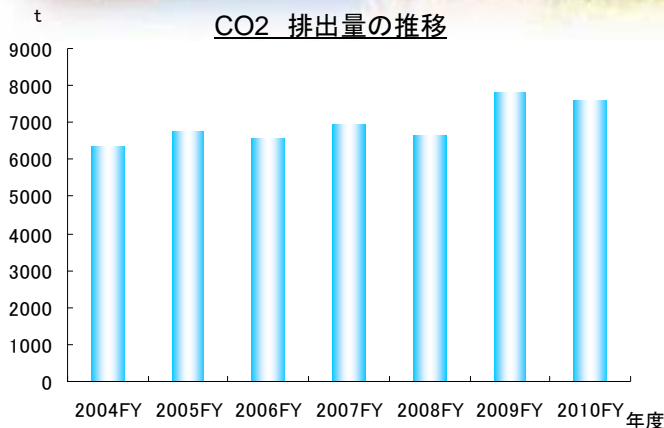
水蒸気を除いて温室効果ガスとして大気中に最も多く存在する気体が二酸化炭素です。二酸化炭素は人為起源の温室効果ガスで、その増加の原因は主に化石燃料の使用です。私たちはこの化石燃料を原料としたエネルギーの合理的な使用に努め、温室効果ガスの排出を抑制しなければなりません。

ナミックスでは年度毎の目標施策に加えて、省エネガイドラインを定めて日常のエネルギーの合理的な使用に努めています。

また、ハイブリッドカーや電気自動車を導入も積極的に行っています。

### ナミックス省エネ運用ガイドライン

ナミックス 省エネ運用ガイドライン	
目的：燃料、資源の効率的な利用と地球温暖化防止 実施：下掲以外の継続的改善活動からの適応	
項目	内容
オフィスの冷暖房	冷房室温 28℃を目途に適度 暖房室温 20℃を目途に適度
OA機器の管理	稼働の際は、パソコンをこまめ
機器の購入	省電機器、OA機器等のパソコン等のOA機器等と同率以上の効率を有す
業務の合理化	業務の見直し・改善等
運輸関係	省エネ法に基づく対策
物流の効率化	稼働効率の向上等、
資源の有効利用(廃棄物)	資源の有効利用に努め、分別収集、資源物リサイクル等
設備管理	空調、冷熱設備のポンプ・ファン、ボイラー等設備の点検・保守・清掃、節電の他省エネ策
水管理	蛇口締りこめ
啓蒙	エネルギー管理に努め



ハイブリッドカー



電気自動車



## 化学物質管理への取り組み

当社の化学物質管理への取り組みは、グリーン調達調査共通化協議会 (JGPSSI: Japan Green Procurement Survey Standardization Initiative) 及び アーティクルマネジメント推進協議会 (JAMP: Joint Article Management Promotion-consortium) が提唱する製品含有化学物質管理ガイドラインに沿った仕組みを構築して運用しています。

またグリーン調達への取り組みは、2005年に“NAMICS グリーン調達基準書”を制定し、部品材料に含まれる化学物質自主基準を設けて含有する化学物質の検証を、お取引先様のご協力を頂きながら対応しています。製品に含まれる化学物質の規制は、欧州は元より世界各国の国々でその要求は高まりを続けています。当社はこれらに対応するため、常に最新の情報収集に努め、より確実な管理に向けてその仕組みの維持向上に努めています。



### ■環境に配慮した製品開発

当社がご提供する製品を通して、人と地球に優しくありたいと思っています。

鉛を用いない製品や廃棄物を少なくするロングライフ製品、有害物質を用いないRoHS対応製品はもちろんのこと、わたしたちは人と地球の声に耳を傾け続けます。



### ■グリーン調達

環境に優しい製品をご提供するために、生産に使用する原材料・容器・包装材、購入製品などの資材調達にあたり、環境負荷の小さい調達品の選定に向けて、グリーン調達基準を制定しています。

当社が資材を選定する際は、従来の『品質』『価格』『安定供給』に『環境』を加え、総合的に判断しています。



対象範囲: ナミックス株式会社本社工場、月岡工場、ナミックステクノコア

対象期間: 2010年4月1日～2011年3月31日

発行: 2011年 7月

お問い合わせ先

ナミックス株式会社 品質保証本部 環境推進グループ

〒950-3131 新潟市北区濁川3993

TEL 025-258-5577 FAX 025-258-5511